

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学  
経営協議会（平成29年度第3回）議事要旨

1. 日時 平成30年1月17日（水）14:00～15:56
2. 場所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 横矢議長  
垣内、箱嶋、中島、土井、小笠原、常盤の各学内委員  
ヴィーツォレック、小山、田中、野間口、手代木、板東、矢嶋の各学外委員  
欠席者 宮寫、宮原の各学外委員  
出席監事 西村、野口の各監事  
陪席者 石川、奥田の各部長  
西山、寒川、林田、森田、尾形、佐橋、田坂、木田の各課長
4. 配付資料  
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成29年度第2回）議事要旨（案）  
資料2 新研究科発足に伴う「第3期中期目標・中期計画」の変更について  
資料3 第3期中期目標・中期計画期間における業務達成基準を適用する事業の計画変更（案）  
資料4 本学の主な動き（平成29年11月～平成30年1月）  
資料5 平成30年度予算に係る文部科学省からの伝達の概要について  
資料6 平成29年度外部資金の受入れについて  
資料7-1 平成30年度年度計画（原案）について  
資料7-2 平成30年度年度計画（原案）について  
机上資料 奈良先端大の概要と特色  
机上資料 新聞記事（奈良先端大 東京フォーラム2017）  
意見交換資料 先端科学技術研究科誕生パンフレット

5. 議事

（前回議事要旨の確認）

資料1の前回（平成29年度第2回）の議事要旨（案）について、原案のとおり承認した。

（審議事項）

（1）新研究科発足に伴う「第3期中期目標・中期計画」の変更について

箱嶋委員から、資料2に基づき、新研究科発足に伴う「第3期中期目標・中期計画」の変更について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、今後修正等がある場合は、学長に一任することとした。

（2）第3期中期目標・中期計画期間における業務達成基準を適用する事業の計画変更について

中島委員から、資料3に基づき、第3期中期目標・中期計画期間における業務達成基準を適用する事業の計画変更について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(報告事項)

(1) 本学の主な動きについて(平成29年11月～平成30年1月)

議長から、資料4に基づき、平成29年11月から平成30年1月までの本学の活動状況等について、報告があった。

(2) 平成30年度予算に係る文部科学省からの伝達の概要について

中島理事から、資料5に基づき、平成30年度予算に係る文部科学省からの伝達の概要について、報告があった。

(3) 平成29年度外部資金の受入れについて

箱嶋委員から、資料6に基づき、平成29年度外部資金の受入れについて、報告があった。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・大型の研究助成金を大学に支出するよう、大企業へアピールすべき。
- ・企業からの外部資金の獲得については、URAの活用も含めて大学全体で戦略的に考えるべき。

(その他)

(1) 「平成30年度年度計画(原案)」について

箱嶋委員から、資料7-1～2に基づき、「平成30年度年度計画(原案)」について、内容確認と意見照会があった。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・研究者を育てて送り出すところに本学の特色と強みがあるので、女性教員の比率を上げるためには、本学で育った女性教員が大きく研究力を付けた実績をアピールすべき。
- ・女性教員が増加しない原因が何なのかを分析すべき。
- ・保育施設の問題については、1大学で行うのは難しいため、近隣の企業等と連携する仕組みを考えてはどうか。

(情報交換・意見交換)

議長から、意見交換資料に基づき、先端科学技術研究科の設置について意見交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・ライフサイエンス系の企業において、データサイエンティストは圧倒的に不足しているが、情報系の学生はあまり来ないため、情報科学とバイオサイエンスの融合領域の進路選択として意識してはどうか。
- ・1研究科体制での教育プログラム等に関して融合領域や複合型、あるいはそういう学生を育成するための考え方を、教員が理解して、意識を切り替えることが重要。
- ・企業では採用された人材が大学で学んだ専門分野で働けることは少ない。異分野に配置されたとしても、その分野の専門性を習得して働くようになる。企業での現状を踏まえると、大学は学びの範囲を固定化せず、学生の意欲に応じて様々な分野を学べるようにすべき。

以上